

あったかいがいいね

シャローム横浜通信 10月号



2021年(令和3年) 10月号(第254号)

ご報告

一雨ごとに秋の深まりを感じておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

先日より、シャローム横浜で発生しました新型コロナウイルス感染状況についてご報告いたします。

シャローム横浜では、3階フロアで勤務する職員1名がPCR検査の結果陽性であることが8月26日に判明しました。

その後、2名の3階ご利用者にPCR検査の結果陽性であることが8月28日に判明したため、旭区健康づくり係保健師の指導により、3階ご利用者49名と3階を出入りする職員59名に対してPCR検査を実施。その結果、8月31日に3階ご利用者2名が陽性と判明しました。

職員1名とご利用者4名の計5名に陽性が確認されたため、旭区健康づくり係より2名の保健師が来所され、陽性者の隔離やゾーニングの実施状況等、感染対策について細かくご指導を頂きました。また、症状が安定しない陽性のご利用者については、療養対象として毎日保健師と連絡を取り合い、必要時に入院する方向で動いた

結果、陽性者2名無事入院することになりました。また、ご希望が丘診療所石川医師のご尽力により在宅酸素機器の導入につなげるなど、ご利用者のいのちを守るためにシャローム横浜においてできる健康管理をしっかりと行ってきました。

また、施設内感染により様々な事情で自宅に戻ることのできない職員が複数名、施設内で寝泊まりすることになるなど様々な事が起こりましたが、セブンスデアドベンチスト教団や多くの皆様の暖かいご支援やご協力のおかげで、この状況の中で前を向くことができておりますことを深く感謝申し上げます。

今後も旭区健康づくり係及び関係医療機関、行政機関等と連携を図りながら、感染拡大防止と終息に向けて職員一同取り組んでまいります。

ご利用者並びにご家族、関係機関や地域の皆様にも多大なるご心配とご迷惑をおかけしている事を心よりお詫び申し上げますと共に、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

施設長 高原 信夫



特養4F



今年も昨年と同様に感染症による影響で各階にて7月18日に納涼祭を行いました。

ただ今年はベランダにご家族の方をお呼びして開催が出来た事を嬉しく思います。ご利用者の方も喜ばれていました。

納涼祭は職員が自慢の歌声を披露したり、ご利用者には太鼓を叩いて頂いたりしました。オヤツには綿飴やあんず棒など夏祭りの定番メニューを用意してとても好評でした。

まだまだ感染症が猛威を奮っていますが十分に気を付けて援助してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。



特養4階 宮沼孝志

第254号

令和3年9月15日発行
(毎月1回15日発行)

責任者：施設長 高原信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町
1988
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員 遠藤・加藤

☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



あったかいが
いいね

EPA

シャローム横浜は 2016 年に外国人介護職員を迎え入れてから今年で 6 年目になります。現在 4 名のインドネシア人介護職員が働いて、頑張っています。皆さんよろしくお祈りします。
坂本晋一



9月5日 栄養課主催のピザの会



天気はあいにくの曇り空でしたが楽しい時間を過ごす事が出来ました。今回のメニューは、ベーコンポテトピザ、ミックスピザ、お好み焼きでした。
栄養課 小寺秀偉

シャローム三育保育園の皆様からマスクを頂きました☆



手書きの可愛いイラストとメッセージ付きです☆ありがとうございます！

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」

第162回 チャプレン 上前至

9 月上旬まで日本ではパラリンピックが行われていた。これらの競技はテレビを通してしかその競技を見ることはできないが実際その競技を見ることを通して、これはこれで非常に興味深く、その楽しさと競技の奥深さに感銘、驚きを禁じえないのは私だけの想いだろうか。障害者を支援することにおいて大切な視点は、失ったもの、できなくなったことではなく、今、まだ使えるもの、まだあるものの方に焦点をあて、何が出来るかに目標を当てなさいと言われる。まさに、このパラリンピックはその視点の大切さを実践している場、その理想を実現している場であることを痛感させられる。世界に、その立証をしてくれていることを想わされるのである。

国際パラリンピック委員会の統計によれば、現在、世界には、紛争、迫害から家を追われた

人々がこの 10 年で大幅に増え、その数は世界で 8200 万人を超え、その内で障害者は何と 1200 万人に上るといふ。その一人の難民選手団として参加したイブラヒム・フセインは言う。「私は足も国も失ったが水泳があった。そしてスポーツをやっている時は気分が和らぎ幸せだった」と。私共の福祉がそういう希望を与えることのできる福祉でありたいと心から願う。「求めよ、そうすれば与えられるであろう。…門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう」マタイ 7 章 7 節

